

今週（11月5日から11月9日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期の後半に入ったものの、取り急ぐ動きは見られず、週を通して落ち着いた地合いで推移した。

日銀当座預金残高が390兆円台前半で推移する中、無担保コールO/N物は、邦銀勢を中心に週を通して▲0.086～▲0.05%のレンジでの出合いで推移した。そうしたもとで、無担保コールO/N物加重平均レートは概ね▲0.07%台前半で推移した。ターム物に関しては、地銀業態を中心にショートターム物で▲0.04%近辺での出合いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは9日に2W物・8,000億円がオファーされ、2,152億円（期落ち額2,142億円）と札割れとなった。

●レボ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.160～▲0.110%程度の水準で推移した。一週間を通して、引け間際にレートが上昇しやすい地合いが続いた。

SC個別銘柄では、5年130～137、10年335～352、20年160～166、30年55～60、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、年末越えの過熱感が一服し、落ち着いたマーケットとなった。

6日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。引き続き買入額が少額にとどまる中、全取落札利回較差+0.015%、平均落札利回較差+0.015%と在庫調整の売りからか、弱い結果となった。

8日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.19～▲0.185%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1894%、按分落札利回▲0.1833%と平均落札利回は前回債から上昇したものの、引き続き低いレート水準での決着となった。セカンダリーでは、▲0.20～▲0.195%の出合いと堅調に推移した。

9日に実施された3M物の入札は、WI取引において一時▲0.28%の出合いが見られたものの、その後は▲0.259%まで売られる展開となる中、平均落札利回▲0.2575%、按分落札利回▲0.2400%と償還日が海外市場の休日に当たることもあってか、前回債からレートは上昇する結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、月初ということもあり、案件少なく落ち着いたマーケットとなった。週間償還総額7,000億円程度に対して、週間発行総額は3,000億円程度と償還超となったが、一時的なショートターム物の期落ちが4,000億円程度あったことを勘案すると発行・償還はほぼ同程度であった。市場残高は、8日時点で10月末から6,673億円増額の18兆9,217億円となっている。発行レートは、引き続き0%近辺が中心となっているが、一部の発行残高が少ない銘柄については浅いマイナスでの発行も見られた。

6日には、CP等買入オペが事前予想通り2,000億円でオファーされた。投資家の運用ニーズやディーラーの玉確保ニーズは依然として強いため売却ニーズは乏しいものの、在庫の入れ替え需要が一定程度あったと思われ、按分落札レートは▲0.002%と前回比（▲0.002%）横ばいとなった。また発行レートが高い銘柄がオペ対象とならなかったためか、平均落札レートは▲0.002%と前回比（0.002%）低下となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
11/5（月）	21,898.99	0.125	113.20	△ 0.072	△ 0.131	3,917,700
11/6（火）	22,147.75	0.125	113.28	△ 0.071	△ 0.142	3,922,900
11/7（水）	22,085.80	0.120	113.60	△ 0.070	△ 0.149	3,920,900
11/8（木）	22,486.92	0.120	113.62	△ 0.071	△ 0.137	3,922,900
11/9（金）	22,250.25	0.120	113.90	△ 0.071	△ 0.140	3,919,700

来週（11月12日から11月16日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/12 (月)	10月の企業物価指数(日銀 8:50)				New York祝日(Veterans Day,observed)
11/13 (火)	9月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	30Y 7,000億円 11/14発行	交付税借入 10,500億円 11/22借入		10月の米財政収支
11/14 (水)	7-9月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50) 9月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)				10月の米消費者物価指数 7-9月期のユーロ圏GDP2次速報 10月の英消費者物価指数
11/15 (木)	9月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	5Y 20,000億円 11/16発行	国有林野借入 776億円 11/26借入		10月の米小売売上高 9月の米企業在庫
11/16 (金)		TB3M 42,500億円 11/19発行			10月の米鉱工業生産・設備稼働率 10月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/12 (月)	900	▲ 10,200	▲ 9,300	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入	▲ 2,100 ▲ 200	10,000 2,200 300	10,200	900	TB3M発行▲43000償還36800 TB6M発行▲23000償還20500
11/13 (火)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	
11/14 (水)	0	▲ 7,000	▲ 7,000				0	▲ 7,000	源泉税揚げ 社会保障費 30Y発行▲7000
11/15 (木)	0	8,000	8,000				0	8,000	2Y償還11500 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3900 償還200 交付税借入▲10500期日10500
11/16 (金)	▲ 1,000	▲ 20,000	▲ 21,000	CP買入		2,000	2,000	▲ 19,000	労働保険料揚げ 5Y発行▲20000
週 間 合 計	900	▲ 27,200	▲ 26,300	—	▲ 2,300	14,500	12,200	▲ 14,100	

11/12は日銀予想、11/13以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、12日にTB3M、TB6Mの発行、14日に30Yの発行、源泉税揚げ、16日に5Yの発行など不足日が多い週となる。積み最終日を挟む週となるが、積みの着地に向けた調整が済んでいる先が多く、12～15日の無担保コールO/N物加重平均レートは横ばい圏で推移するものと予想され、新積み期を迎える16日もレート水準に大きな変化はないものと見込まれる。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。短国市場は、16日に3M物の入札が実施予定となっており、海外勢の動向次第ではレートの上昇も考えられる。CP市場は、例年11月末頃から12月に掛けて年末資金需要が旺盛になってくる傾向があることから、来週は今週同様に落ち着いたマーケットが予想される。また、13日にはCP等買入オペが2,000億円で予定されている。

主要なイベントとしては、国内では14日に7-9月期のGDP1次速報値、海外では14日に7-9月期のユーロ圏GDP2次速報値、10月の米国CPI、10月の英国CPI、15日に10月の米国小売売上高の発表などが挙げられる。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。